

短信欄

* 山崎先生の情報提供

日本 AALA 連帯委員会国際部 情報交流会

開催日時：2023年2月23日 15時～（オンライン会合）

山崎圭一 横浜国立大学教授 / 日本 AALA 連帯委員会常任理事

1 ルラ大統領の訪米

本年（2023年）の1月1日より、ルラ大統領の二度目の政権運営がはじまりました。一度目は2003年～10年の2期8年間でした。彼の外交が、今後どのように展開するか注目されます。先は読めませんが、最近の動きとしては、ルラ大統領は、2月10日に米国のホワイトハウスでバイデン大統領と会談しました。この短い滞米中に、バーニー・サンダース上院議員といった民主党の進歩派議員とあたり（*1）、米国労働総同盟産別会議のAFL-CIOを訪問されました（*2）。彼らとの会合で、貧困撲滅や環境保全など共通課題での共闘を語り合ったようです。ルラらしい動きといえます。

注：

1 情報源は、米国独立系メディア *Common Dreams* のウェブサイトで、URL は以下：<https://www.commondreams.org/newswire/sanders-statement-following-meeting-with-brazils-president-lula>（最終閲覧日：2023年2月18日）

2 情報源は、AFL-CIO のウェブサイトの記事で、URL は以下：<https://aflcio.org/press/releases/afl-cio-officers-statement-meeting-lula-brazil>（最終閲覧日：2023年2月18日）

2 ルラ氏の昨年の選挙戦中の発言：米国『TIME』誌（週刊誌）の記事

2022年5月23日・30日の Double Issue からの、抜粋（表紙写真も）

<https://time.com/6173232/lula-da-silva-transcript/>

We politicians reap what we sow. If I sow fraternity, solidarity, harmony, I'll reap good things. If I sow discord, I'll reap quarrels. Putin shouldn't have invaded Ukraine. But it's not just Putin who is guilty. The U.S. and the E.U. are also guilty.

What was the reason for the Ukraine invasion? NATO? Then the U.S. and Europe should have said: “Ukraine won’t join NATO.” That would have solved the problem.

次頁に仮訳（by 山崎圭一）

私たち政治家は、自分が蒔いたものを刈り取ります。もし私が友愛、連帯、調和の種を蒔けば、私は良いものを刈り取ることができるでしょう。不和の種をまけば、喧嘩を刈り取ります。プーチンはウクライナを侵略すべきではありませんでした。しかし有罪なのは、プーチンだけではありません。米国とEUも有罪です。ウクライナ侵攻の理由は何でしょうか？ NATO? であれば、アメリカとヨーロッパは「ウクライナは NATO に加盟しない」と言うべきでした。そういえば、問題が解決したはずですよ。



3 2023年1月のルラ大統領の動き

TeleSUR（本部はベネズエラにある国際通信社）の記事の抜粋

<https://www.telesurenglish.net/news/Lula-Wont-Send-Arms-to-Ukraine-Brazil-Is-a-Country-of-Peace-20230130-0027.html>

Brazilian President Luiz Inácio Lula da Silva said on Monday after meeting with German Chancellor Olaf Scholz that the South American country will not send ammunition that could be used in the conflict between Russia and Ukraine.

仮訳（by 山崎圭一）

ブラジルのルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ大統領は、月曜日、ドイツのオラフ・ショルツ首相との会談後に、この南米の国は、ロシアとウクライナの紛争で使用されるかもしれない弾薬は供与しないと、述べた。

4 PCdoB (ブラジル「の」共産党)のウェブサイト

URL: <https://pcdob.org.br/>

(注: 以下のスクリーンショットが最初にでてくる画面ではありません)

1番目は、キッシンジャー氏ですら、アメリカがウクライナを NATO に加盟されることは賢明ではない、と述べたことを紹介する記事です。2番目は、ブッシュ (ジュニア) 氏が、ウクライナ侵略が残虐だということを、(自分の政権時の)「イラク」と、一瞬ですが、いいまちがえた、という記事です。全体に、ロシアのウクライナ侵略行動だけを非難する論調ではなく、米国の歴史的なかわりをふくめて、状況の全体をみようという論調がうかがえます。



The screenshot shows the website of the Partido Comunista do Brasil (PCdoB). The header is red with the party's logo and name. Below the header, there are navigation links: Partido, Documentos, Organização, Formação e Propaganda, and Notícias. A search icon is also present. The main content area displays three news articles, each with a small image, a title, a date, and a short summary.

Até Kissinger adverte: 'Não seria sensato para EUA incluir Ucrânia na Otan'
4 de outubro de 2022
O principal desafio cresceu quando o Muro de Berlim caiu. Do ponto de vista russo, os Estados Unidos tentaram integrar toda a região [da Europa de Leste] sem exceção em um sistema estratégico pró-americano. Penso que não seria o mais sensato para a política dos EUA tentar incluir a Ucrânia na Otan", declarou Kissinger. A afirmação do ex-secretário de Estado [...]

Bush tropeça e diz "invasão do Iraque foi brutal", ao criticar Rússia
19 de maio de 2022
Falando em Dallas na quarta-feira (18) em um evento organizado pelo Instituto que leva seu nome, o ex-presidente George W. Bush levou a plateia a risadas ao, no intuito de condenar a 'invasão russa da Ucrânia', acabar se entregando dizendo que era a "decisão de um homem de lançar uma invasão totalmente injustificada e brutal do Iraque... ops, Ucrânia". Segundo [...]

Deputada dos EUA vai à Ucrânia incentivar continuidade da guerra
2 de maio de 2022
Após o governo Joe Biden despejar mais US\$ 33 bilhões (R\$ 166,6 bilhões) para incentivar a continuidade do conflito da Ucrânia, a presidente da Câmara dos Estados Unidos, Nancy Pelosi, que ajudou a aprovar o pacote bélico, foi condecorada no domingo (1), em Kiev, com a Ordem da Princesa Olga. Para demonstrar sua submissão aos ditados de Washington, o presidente [...]

* 大村哲さんからの投稿

AALA の皆様(BCC)

地球温暖化が国際政治の場に登場してから 35 年経ちました。マスコミは気候危機を煽っていて、人類が出す CO2 が地球温暖化の原因との説が、世論を支配しています。でも実際の CO2 排出削減は進んでいません。2030 年に排出半減なんて夢のまた夢です。

杉山大志・木村史子チームが精力的に外国の地球温暖化論文を翻訳して紹介している。

今回の著者リチャード・リンゼンは、MIT のアルフレッド・P・スローン 記念名誉教授（大気科学）である。

リチャード・リンゼンの主張は、従来の地球温暖化説は地球を 1 次元的にしか見ていない。地球を理解するには 3 次元的に、対流を含めて理解すべきである。そのためには流体力学の手法を活用すべきである、というものでした。

===

目次

著者について

概要

- 1.一般的な説
- 2.地球の温度とは？
- 3.地球の気候はどうなっているのか？
- 4.熱帯と極域の温度差はどうやって決まるのか？
- 5.熱帯の気温に安定性をもたらすものは何か？
- 6.CO2 は気候のどこに関わっているのか？
- 7.影響
- 8.私たちはどこに向かっているのか

謝辞

参考文献

===

（日本語訳）表紙・参考文献を除いた部分は、17 頁。

https://cigs.canon/uploads/2023/03/An_Assessment_of_The_conventional_Global_Warming_Narrative_Sugiyama_202303.pdf

（英語の原論文）

<https://www.thegwpf.org/content/uploads/2022/09/Lindzen-global-warming-narrative.pdf>

（科学が得意でない方向け）のイメージ表現 Youtube もお勧めです。

<https://www.youtube.com/watch?list=TLPQMzAwMTlwMjJrK1Y3llvMXA&v=5bnmaYOFerk&feature=youtu.be>

＝ ＝ ＝

英語版には、Nic Lewis という人のコメントと、Richard Lindzen の返信も収録されていたので、機械翻訳にかけてみました(添付 pdf)

＝ ＝ ＝

『温室効果を再考する』『従来の地球温暖化説は正しいのか』を読んで感じたことは以下。

懐疑論者と言われていた先駆者、東工大の丸山茂徳、アラスカ大学の赤祖父俊一らは、他の学問分野の世界的権威でした。だから、世の中に広まった地球温暖化 CO2 原因説を、外在的に批判してきました。今回、杉山大志・木村史子チームが翻訳紹介した外国の 2 編の論文は、気候科学の内部に入り込んだ内在的な批判になっていました。世の中、時間が進むと、批判方法も大進歩するのですね。ご参考まで。(大村 哲)

海外進歩系メディアの紹介

1 . Globetrotter

<https://globetrotter.media/>

* 「フランクフルト市、ロジャー・ウォーターズのコンサートに不許可」(ピंक・フロイドの元ベーシストです。ウクライナの即時停戦を国連安保理でアピールしたのが嫌われたようです)

* 「ロシアウクライナ戦争の最前線に立つ外国人戦闘員」

* 「グローバル・サウスは、ロシアに関して西側に味方せよとの圧力を拒否する」

* 「グローバルサウスの多くがウクライナで西側を自動的に支持しない5つの理由」

* 「ウクライナ戦争で破壊工作が増加している理由」

2 . Democracy Now

<https://www.democracynow.org/>

* 台湾、米国、中国をめぐる緊張が高まる、戦争が「ますます近づく」

* 「中国の中東協定: イランとサウジアラビアが関係を再構築」

* 「日本のノーベル賞受賞者大江健三郎を偲んで」

* 「米国が世界最大の武器取引国となる」

3 . GrayZone

<https://thegrayzone.com/>

* 「NATO のウクライナ代理戦争がエスカレートするにつれて、ヨーロッパの反戦抗議が強まる」

* 「米国はソマリア国家再建の闘争を鎮圧した」